

複雑組織製造に必要な基盤技術を考える ーバイオリアクターの側からー

9月17日(X) 13:15～15:15

L会場(岡山大学)

【趣旨】次世代再生医療技術として、複雑構造(血管網や神経網など)を有する機能的組織製品の実現が予期される。この実現には、複雑組織構造を作り、機能的に育み、適切にその機能評価が可能な技術の一連が求められる。2018年度大会では同タイトルにて、複雑組織を作り上げるための技術群に着目した。本大会ではバイオリアクター側に求められる要素技術について議論をしたい。

共催: 化学工学会バイオ部会メディカル分野専門分科会、
生物工学会次世代アニマルセルインダストリー研究部会
骨格筋スマート社会実現コンソーシアム

オーガナイザー: 長森(阪工大), 伊藤(東大)

13:15	はじめに	長森 英二 阪工大院・工・生命工
13:20	招待講演・動物細胞培養用バイオリアクターの研究を振り返って	飯島 信司 愛工大・工・応用化学
13:45	招待講演・乳化パーフルオロカーボンを用いた人工血液研究(仮)	福島 昭二 神戸学院大・薬
14:10	休憩	
14:20	ヘモグロビンを封入した人工酸素運搬体(人工赤血球)(仮)	伊藤 大知 東大院・医・疾患生命工学セ
14:45	酸素供給能・保持能を高めた動物細胞培養(仮)	長森 英二 阪工大院・工・生命工